

広報担当が取材に行きます。あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。カシャ！！
 情報交流課 ☎230040 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp



講師の三浦さん（左）の話を聞き入る参加者

誰もができる社会貢献を学ぶ

■第2回「いこっと おとなの学び講座」

ミルキーウェイクスクエア（波津区）で5月29日、三浦美樹さん（一般社団法人日本承継寄付協会代表理事・牧之原市出身）による講演会「少額からできる遺贈寄付～思いを形に」が開催され、市内外から約40人が参加しました。

講演では、遺言により故人の財産を地方公共団体や法人などに寄付する「遺贈寄付」について三浦さんが解説し、参加者は真剣に耳を傾けました。参加者からは「参加して未来が少し明るく感じた」などの感想が聞かれました。

一足早い夏がやってきた！

■プール開き

地頭方幼稚園で6月1日、プール開きが行われ、3～5歳児約20人が水遊びを楽しみました。

先生からプールで安全に遊ぶための約束などの話を聞いた後、3歳児はビニールプール、4・5歳児は大きなプールへ。園児は、先生が指定した動物の真似をして泳いだり、小さなビニールボールを拾ったり、大きなビニールボールを押したりと、先生と一緒にさまざまな遊びを満喫。園児の一人は「楽しい。もっと遊びたい」と満面の笑顔で話しました。



歓声を上げながら大きなビニールボールで遊ぶ園児

聴覚障がいあっても楽しめる環境を

■第41回日本デフサーフィン選手権大会

鹿島海岸で5月28日、「第41回日本デフサーフィン選手権大会」が開催されました。

デフ（deaf）は、聴覚障がいを表す英単語で、聴覚障がいをもつ人たちがサーフィンを楽しめる環境を整えようと、（一社）日本デフサーフィン連盟（JDSA）が大会を主催しています。JDSAの中村健吾理事長は、「耳がよく聞こえない状況でのサーフィンは、トラブルや危険につながる。我々の存在を多くの人に知ってもらい、共に楽しめる環境をつくりたい」と話しました。



カラーゼッケンを付けて波に向かう選手ら



焙炉はいろの上で手もみ作業をする参加者

伝統の手もみ茶づくりを体験

■NPO法人勝間田塾 手もみ茶づくり

NPO法人勝間田塾で5月28日、手もみ茶づくり体験教室が開催され、市内の小学生と保護者ら10人が参加しました。

これは、市教育委員会主催の「子どもまきのほら塾」のプログラムの一つとして同法人が開催する「子ども教室」の一環です。参加者は、講師の久保田由子さん（静岡市）の指導を受けながら、数時間かけて手もみ茶作りの工程を体験。最後には、自分たちが作った手もみ茶をみんなで味わいました。



協定書を手にする加藤代表取締役社長（右）と杉本市長

有事に備え心強い協定を締結

■災害廃棄物の処理等に関する協定を締結

市は5月23日、株式会社ミダック（浜松市・加藤恵子代表取締役社長）と「地震等大規模災害時における災害廃棄物の処理等に関する協定」を締結しました。

これは、前年5月の竜巻等災害により発生した約560トンの災害廃棄物の対応に迫られた教訓などから、市外の大規模事業者との協定を模索し、締結に至ったものです。杉本市長は「心強い協定の締結ができた。有事の際、早期の復旧につなげるために、連携を深めたい」と話しました。

空から郷土を眺める貴重な体験

■富士山静岡空港出発 周遊フライト

相良小学校と地頭方小学校の6年生が5月25日と26日、富士山静岡空港を出発して富士山や郷土を空から眺める周遊フライトに参加しました。

これは、株式会社フジドリームエアラインズのツアーを利用したもので、貸し切りの飛行機に搭乗した児童らは、富士山や自分たちの学校などの上空を周遊。機内は驚きや興奮の声に包まれました。フライト後は、特別に制限区域内に入って整備用車両などの見学をしたり、整備士によるミニ航空教室で飛行機について学んだりしました。



意気揚々と飛行機に乗り込む児童ら

平和の尊さを未来へ

■牧之原市戦没者追悼式

5月16日、牧之原市戦没者追悼式がい〜らで執り行われ、遺族会をはじめ、多くの関係者の皆さんが、戦没者の御霊を敬い、平和の大切さやありがたさを改めて考えました。

式典では、遺族会や相良こども園の園児らが祭壇に献花を行ったほか、ご遺族の石神齊さん（静波区）による講演「後世に伝えたい牧之原市のはなし」が行われました。石神さんは、戦時中（幼少期）の体験談を元に「二度と戦争を繰り返してはならない」と話しました。



スライド写真を使いながら当時の様子を語る石神さん



校内のチェックポイントを回る「防災スタンプラリー」の様子

多様な視点で防災学ぶ

■相良中学校1年生防災講座

相良中学校1年生（126人）が5月17日から3日間、「自然災害を前にしたとき、自分たちに何ができるか」を考える防災学習を行いました。

18日には、東北大学災害科学国際研究所プロジェクト講師の保田真理先生を講師に招いた災害講話と、災害発生時に自分たちが「いつ、何をするか？」の「減災行動プランづくり」について学び、スタンプラリーなどを通じて防災・減災に対する知識を深めました。この講座は、中部電力浜岡地域事務所の協力を受け実施されました。

4月号24ページ「まちのわだい」の掲載記事に氏名の誤りがありました。訂正しお詫びします。

【誤】大石小春さん 【正】大石心春さん